

歴史まち歩き

28

星崎の里

【名鉄本星崎駅▶名鉄本星崎駅】

海を渡る風、星の降る岬、 古代の記憶を訪ねる星崎の里

塩の一大産地だったまち星崎。古代より星に縁があり、隕石の落下や流星雨の記録が日本書紀に記されています。創始は舒明天皇のころという星宮社、ご利益のお礼にしゃもじを供えたことから「おしゃもじさま」と呼ばれる石神社などを巡ります。



1 星崎城跡

治承年間(1177~1181年)に山田重忠によって、笠寺台地の南端に築城されました。戦国時代には、織田、今川の勢力消長により次々と城主が交代し、桶狭間合戦の後は織田側の岡田直教が居城していましたが、天正16年(1588年)、山口重政が城主のときに廃城となりました。城の本丸は現在の笠寺小学校の場所にあり、東西約47メートル、南北約61メートルあったといわれています。

2 善住寺

慶安4年(1651年)に浄土宗に改宗し、「善住寺」と改称しました。尾張藩の菩提寺・建中寺の末寺です。寄棟造檼瓦葺きの本堂と表門は、水袋水田や弥次衛水田を開拓した本地村庄屋中村弥次右衛門によって享保18年(1733年)に再建されたと伝えられています。境内の「桑子地蔵」は、塩付街道の石仏でした。

3 星宮社

創始は舒明(じょめい)天皇のころ(629~641年)で、星崎城築城のときにこの地に移されたといわれています。かつては星崎の岬の最南端に位置し、里人のともし常夜燈が灯台の役目を果たしたと伝えられています。境内社のうち、上・下知我麻(ちかま)神社は宮簀媛命(みやすひめのみこと)の父・母を祭神とし、現在熱田神宮内に祀られている両社もかつてはここに祀られていたといわれています。また、この地に塩づくりを教えたといわれる伊奈突智老翁(イナツチオキナ)も祀られています。

4 おしゃもじさま(石神社)

石を御神体とした神社で、歯痛、神経痛に霊験があるといわれています。古い時代からの民間信仰である「シャグジ(宿神)信仰」とも関わりがあるといわれ、お礼にしゃもじをお供えたことから、「おしゃもじ様」と呼ばれました。神社西側の道は、かつて笠寺方面と知多半島を結ぶ重要な街道で、知多郡道、知多街道と呼ばれていました。

5 知多街道 百観音(光照寺)

慶安4年(1651年)に浄土宗に改宗し、「光照寺」と改称しました。そのとき、建中寺の末寺となりました。尾張の有力な武士だった山田次郎重忠が創建したと寺伝に残されています。寺の東のお堂には数多くの石仏が並び、「百観音」と呼ばれています。かつては、知多街道を往来する人々の休息所になっていたと伝えられています。

6 鹿島稲荷社

天白川の砂州が発達してできた土地に建っています。昔、この地は「鹿の島」と呼ばれていました。「狐の化身の久太夫の妻が、正体を子どもに見られ、姿を消す前に恩返しに一晚で田植えをし、家を出ていった。その年、久太夫の田だけ豊かに実った」という伝説が残されています。そのため、「久太稲荷」とも呼ばれています。

7 永井荷風追慕碑

西来寺の境内に建つ永井荷風の追慕碑です。「人生の真相は、寂寞の底に沈んで初めて之を見るであろう」という荷風の言葉が刻まれています。荷風に学んだ堀口大学が揮毫し、昭和50年(1975年)に建てられました。

8 永井星渚(せいしよ)出生地

永井荷風の先祖 永井星渚の屋敷跡です。但徠派の儒学者として、野にあって尾張の儒学者として活躍しました。門下に儒者の伊藤両村などを輩出しています。

9 牛毛神社

牛毛は、本地、南野、荒井などとともに、天白川の砂州が発達し、その上にできた集落です。神社は堤防上にあり、創建は太閤検地(1582~1595年)より以前と推定されます。祭神は須佐之男命です。境内には、明和6年(1769年)に奉納された手洗い鉢、庚申塚の碑、ムクノキの大木があります。

10 旧鳴尾学校舎

明治4年(1871年)の廃藩置県のときに、名古屋県の出張所として知多郡横須賀町に建てられたものです。明治15年(1882年)に、第31番小学鳴尾学校の校舎になりました。正方形の皿形の板を3枚重ねた玄関柱、網代式の玄関天井、ベランダ風の廊下など、随所に洋風建築のデザインがみられます。

11 喚続地蔵(よびつぎじぞう)

地蔵寺の本尊で、8年ごとに開帳されます。元和元年(1615年)に、大阪落城の落武者新藤半兵衛が、石地蔵の霊験を試そうと槍で突いたところ、上下二つに割れ、半兵衛は血を吐いて絶命した、という言い伝えが残されています。

12 喚続神社(よびつぎじんじゃ)

大永3年(1523年)に創建。「昔、神社西側の海岸の堤防が何度も決壊したため、伊勢神宮で1万回のお祓いをうけたところ、神徳があり堤防が完成した。そのことに感謝し、社殿を伊勢神宮に向けて建てた」という言い伝えが残されています。尾張名所図会にも描かれている、寛永9年(1632年)8月14日の夜に落下した隕石が、社宝として保管されています。毎年10月には例祭が行われ、「布袋」「福祿寿」「猩猩」と呼ばれる大きな人形が練り歩きます。